

自治体名	山形県教育委員会（天童市） 担当課：教育庁スポーツ保健課      電話番号：023-630-2852
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	4校	② 生徒数	1,629人	③ 部活動数	54部活※集計中
--------	----	-------	--------	--------	----------

- ・天童市立第一・二・三・四中学校の野球部の合同部活動
- ・合同部活動の活動日は週3日（そのうち、実際に集合して活動する日は土日のいずれか。平日については、練習メニューの配信やリモートでの指導）
- ・土日の活動については、顧問は、いずれかの学校の顧問が付き添う

1.2 地域における現状・課題

- ・中学校の部員数の減少（学校単位で大会に参加することができない場合があった）
- ・天童市内のスポーツ少年団員数（小学生）の減少
- ・時間外勤務のうち部活動指導時間の割合 約4割（天童市）
- ・専門的指導ができない顧問の精神的負担（全ての学校に専門的な指導ができる顧問がいるわけではない）

1.3 実践研究における取組目標

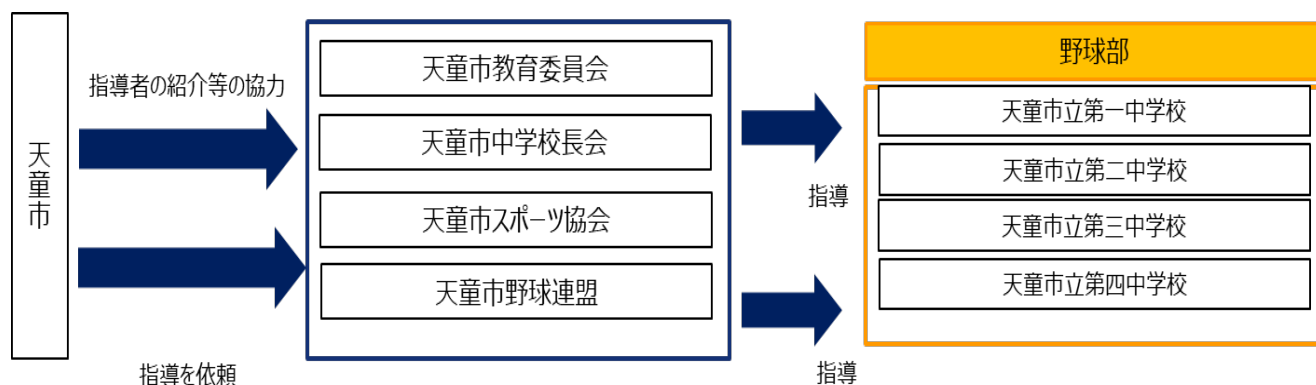
- ・合同部活動における生徒の満足度 80%以上
- ・顧問の1週間の時間外勤務における部活動指導時間の削減
- ・クラブ化への推進

1.4 実践研究の運営体制

【部活動検討委員会の設置・開催（市）】

- ・地域移行に向けた準備委員会①  
部活動改革の方向性・市内小中学校の現状・役割分担・今後の方向性等
- ・地域移行に向けた準備委員会②  
地域移行に係るアンケート調査・検討委員会構成員・各課進捗状況確認・部活動の地域移行に向けた説明会開催  
国の部活動改革を踏まえた今後の方向性・改革に向けた組織及びスケジュール

【運営体制図】



## 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・地域移行に向けた準備委員会の開催（6月、10月）
- ・部活動の地域移行に向けた説明会開催（3月）
- ・保護者会への説明会
- ・休日は4校合同で活動
- ・天童市野球連盟から外部指導者を派遣
- ・大会参加の工夫

## 3. 実践研究校における取組について

### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	天童市内の全中学校（4校）
② 実践研究に取り組んだ部活動数	4部活
③ 種目	野球

《主な取組例（1）》…天童市立第一・二・三・四中学校

① 種目	野球	④ 参加者数	37人
② 活動日	平日4日、日曜日3h	⑤ 活動場所	天童市立第一中学校グラウンド他
③ 指導者人数	1～2人	⑧ 謝金単価(1人あたり)	外部指導者 : 1,600円/時間
④ 指導者属性	外部指導者については天童市野球連盟より派遣		
⑤ 参加会費の有無・金額	徴収あり（1人あたり：12,000円/年額）		
⑥ 移動手段	自転車または保護者の自家用車		
⑦ 合同チームとしての大会参加状況	合同チームとして、競技団体主催の大会に4回参加		

### 3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者、地域住民等）

- ・多人数で活動すると、楽しい（生徒）
- ・高度な技術指導を受けることができるのが良い（生徒）
- ・活動内容については満足（保護者）
- ・保護者の送迎がやや負担（保護者）
- ・休日にしっかり休める時間が取れるようになった（教員）

### 3.3 各実践校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・平日はICTを活用し指導者からメニューの配信・動作解析ソフトの活用  
経験がない指導者でも指導が可能  
生徒同士での技術向上  
タブレットによる振り返りへの指導者からのコメント
- ・引率顧問は輪番で担当1名

## 4. 実践研究の成果と今後の課題

### 4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・生徒の満足度 85.7%
- ・顧問の時間外勤務の削減
- ・専門的な指導ができない顧問の精神的負担軽減



### 4.2 地域連携・地域移行における今後の課題

- ・保護者の会費負担について
- ・移動手段について
- ・用具の管理について
- ・活動時間の充実



## 中学生軟式野球天童地域クラブ（仮称）の始動にあたって

### 1 なぜ今、軟式の中学クラブチームを設立するのか？

#### (1) クラブ設立の背景

- ・ 中学校で軟式野球を続けようとした場合、中学校部活における部員数の減少、それに関わる活動の縮小等がある。
- ・ 中学硬式野球チームは多くの選択肢が存在するが、みんなが中学硬式を選択するわけではない。（選手の身体的な発達段階、学業等との両立、保護者の負担等）
- ・ 野球が好きで中学でも続けたいものの、継続を諦めている選手も一定数存在するものと考えられる。

天童市内新チーム野球部員数

	1年	2年	計
一中	4名	5名	9名
二中	9名	3名	12名
三中	5名	6名	11名
四中	4名	10名	14名
計	22名	24名	46名

⇒ それらの選手の受け皿となるチームが必要

#### (2) 国の部活動改革

- ・ 将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進める。

⇒ 学校部活動から地域部活動への転換

- ・ 学校と地域が協働・融合した形での持続可能なスポーツや芸術・文化等の活動のための環境整備を進める。

⇒ 子どものスポーツ等の機会保障

- ・ 生徒にとって望ましい部活動の環境の構築と学校の働き方改革も考慮した更なる部活動改革の推進を目指して、「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策とスケジュールをとりまとめた。

⇒ 部活動改革の全国展開が計画

**学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要**

**部活動の意義と課題**

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による身体的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の原因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

**持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要**

**改革の方向性**

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

**具体的な方策**

**I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）**

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保  
(育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職・兼業の仕組みの活用)
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

**II. 合理的で効率的な部活動の推進**

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。  
※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

**学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュール**

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6) ~
国	部活動指導員の配置支援				部活動改革の全国展開 ● 休日の部活動の段階的な地域移行 ● 休日の部活動の指導を望まない教師の 部活動に従事しない環境の構築
	地域スポーツ・文化環境の整備の推進				
都道府県・市町村	教師の兼職・兼業に関する整理				教師の兼職・兼業による地域部活動への参画
	地域部活動・合同部活動を推進するための実践研究の実施 (保護者の費用負担、自治体の減免措置等、国による支援方策の検討を含む)				
学校体育団体・競技団体・文化芸術団体	活動時間の適正化の推進				生徒にとって望ましい合理的な地方大会の推進
	地域スポーツ・文化環境の整備の推進				
学校の働き方改革関連	学校体育団体の実践研究				部活動改革を踏まえた給特法改正の検討
	地方大会の実態把握		地方大会の在り方の整理		
			教員勤務実態調査		
					超額上乗指針の策定・運用



**天童市の選手の受け皿となる中学軟式野球クラブチームの設立**

## 2 クラブチームの指導方針と運営は？

### (1) 野球競技を通じた総合的な人間形成

- ・ 「野球だけで生きていく」のではなく、「野球をやっていたことを活かして生きていける」人材を育てる。

I love Baseball but Baseball is just a chapter in life

『 野球は大好き でも 人生の一部でしかない 』

野球がなくなったときに何もできない人間になってしまうのではなく、  
野球競技を通して学んだことを活かせる人間になろう。

⇒ 文武両道と野球競技を通して総合的な人間育成を目指すことを指導理念とする。

### (2) 野球と学業、真の意味での「両立」

- ・ 実績豊富な指導者陣による緻密な技術指導により練習内容の効率化を図る。
- ・ 学年毎チーム編成等により試合出場機会を確保する。
- ・ 中間・期末試験前には学習指導の時間を設け、「学業＋野球」での両立を目指す。

### (3) 休日の地域部活動の実現に向けた取組

- ・ 各都道府県に拠点校（地域）を設け、国として拠点校（地域）における実践研究を実施するにあたり、本クラブが、山形県高校野球連盟、山形県教育委員会、天童市教育委員会、天童市野球連盟の後押しを受けて、令和3・4年度に指定を受け、実践研究を行いながら、クラブとして運営を成熟させていく。

## 3 クラブチームの指導体制（設立時）は？

指導は顧問、各校コーチ、いずれ連盟の技術指導部も参画する方向でスタートしたい。

## 4 クラブチームの選手募集と保護者の関わりは？

### (1) 選手募集について

- ・ 各校の野球部員を中心に改めてクラブ員を募集する。なお、各校の野球部に所属することは妨げない。

### (2) 保護者の関わりについて

- ・ 保護者会は設けず、練習については基本的に選手たちで行う。（審判等を含む）  
なお、練習会場に足を運び、参観等することは構わない。
- ・ 後援会に入会いただき、後援会費として月1,000円（予定）を徴収する。

## 5 クラブチームの活動等は？

毎週日曜日3時間の練習とクラブチームの各種大会（全軟、U-14等）への出場  
課題 ・ できるだけ試合をすることを考えると1日になることも有り得る。  
・ 平日の練習は原則各校で行う。なお、練習内容は検討する必要がある。

# 天童市中学生軟式野球クラブ 後援会 定期総会



産経新聞社 提供

日時：令和 4 年 5 月 29 日（日）

11：00～

場所：天童市立第一中学校 体育館

# 天童市中学生軟式野球クラブ

## <指導スタッフ>

代 表	町 田 真 裕 (天童市野球連盟 副会長 天童一中 校 長)
ヘッドコーチ	五十嵐 晋 (天童市野球連盟 理事長 天童一中野球部 顧問)
コ ー チ	藤 原 誠 (天童市野球連盟 理 事 天童四中野球部 顧問)
コ ー チ	松 田 佳 一 (天童市野球連盟 技術指導部)
コ ー チ	今 田 昌 揮 (天童市野球連盟 技術指導部)
コ ー チ	大 井 貴 人 (天童市野球連盟 技術指導部)
コ ー チ	鈴 木 友 輔 (天童一中野球部 顧 問)
コ ー チ	齋 野 知 也 (天童一中 教 諭)
コ ー チ	亀 井 一 寿 (天童二中野球部 顧 問)
コ ー チ	横 井 耀 (天童三中野球部 顧 問)
コ ー チ	五十嵐 太 輔 (天童三中野球部 顧 問)

## <後援会役員>

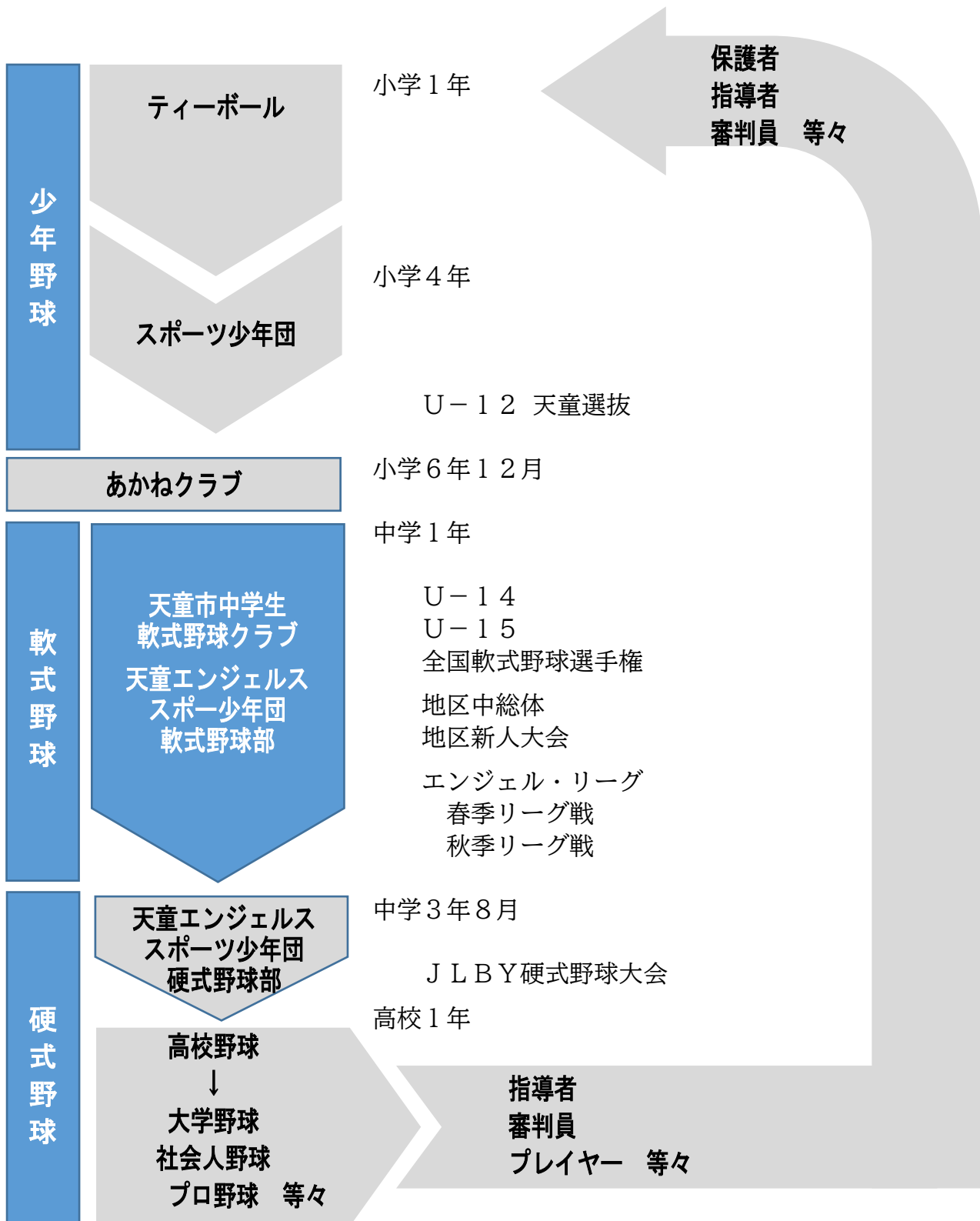
会 長	伊 藤 竜 二 (玲 旺 天童四中)
副 会 長	佐 藤 正 志 (蓮 斗 天童一中)
監 事	後 藤 影 子 (智 晴 天童二中)
//	鈴 木 隆 寛 (祥 太 天童三中)



# 天童市中学生軟式野球クラブの理念

正式名称 天童市中学生軟式野球クラブ（天童市中学校野球部合同部活動）  
天童エンジェルススポーツ少年団 軟式野球部

目指すのは持続可能な野球循環



# 天童市中学生軟式野球クラブの指導ビジョン

－探究・挑戦・協働 そして、自立へ－

I love Baseball but Baseball is just a chapter in life

『 野球は大好き でも 人生の一部でしかない 』

私たちは、

野球がなくなったときに何もできない人間になってしまうのではなく、野球競技を通して学んだことを活かせる人間にならなければならないと考えます。

そのために、

「指示されたとおりに動く」のではなく、「自分で考え、自分で決めて、自分から動く」ことができる。そんな、自立した人間になれるように指導します。

## 3つの指導方針

### 野球の本質を問い、探究し続ける

本クラブでは、「勝つことを目的とする」勝利至上主義ではなく、「生きて還る数の多い方が勝利」という野球の本質を理解し、「勝利のために何をすべきか」を問う“勝利志向主義”の指導に徹します。

### 未知の体験に飛び込み、挑戦し続ける

本クラブでは、練習は毎週日曜日に原則3時間程度（練習試合で1日3試合程度行う場合は5時間程度）とし、身体や運動の仕組みの理解に努め、科学的根拠に沿った練習を行うことで、密度が濃く、肩、肘などにスポーツ障害を起こさない指導に徹します。

### 仲間と目標を共有し、協働し続ける

本クラブでは、社会常識に反する意味のない盛り上がりや相手を威圧するような声かけは認めず、論理的な言葉、必要な声かけができる選手になるように指導します。

ですから、一緒に野球をする仲間である指導者も、罵声をあびせたり、高圧的な指導を行ったりはしません。

## お願い

本クラブでは、保護者の負担は極力回避し、準備や審判なども自分たちで行えるように指導します。

ですから、保護者のみなさまには、後援会に入会していただき、選手、チームへの経済的応援をお願いします。



## 天童市中学生軟式野球クラブ 年間スケジュール

	クラブ予定	大会等
四月		春季リーグ戦（エンジェル・リーグ）
五月	後援会総会（新入生説明会） クラブ員募集・入団	全国中学生軟式野球選手権地区予選 天童市総体（令和4年度は中止）
六月		地区中総体
七月		県中総体 U-15山形県選抜野球大会
八月	※天童エンジェルススポーツ少年団 硬式野球部員募集・入団 後援会総会	全国中学生軟式野球選手権 審判講習会
九月		地区新人大会
十月		南ブロック新人大会 秋季リーグ戦（エンジェル・リーグ）
十一月		U-14山形県選抜野球大会
十二月		
一月		東日本KWB中学生野球大会
二月		
三月	安全祈願 クラブ員募集・入団	審判講習会（認定試験）

春季・秋季リーグ戦（エンジェル・リーグ【通称Aリーグ】）

	A	B	C	D
A				
B				
C				
D				

1 日程（雨天の場合は中止）

月	日（日）	A対B（C）	C対D（B）	A対C（D）
月	日（日）	B対C（D）	D対A（C）	B対D（A）
月	日（日）	C対D（A）	A対B（D）	C対A（B）
月	日（日）	D対A（B）	B対C（A）	D対B（C）

2 ルール

- ・ 7回戦とし、表裏を必ず行う  
ただし、75分で試合は打ち切る（開始時間 8：30 10：00 11：30）
- ・ 試合終了時に得点が多いほうに勝ち点3、同点の場合は両チームに勝ち点1を与える
- ・ 勝ち点によって順位を決める
- ・ 投手は1日5イニングまでとする
- ・ カウントは0－1から始める
- ・ 打者は登録メンバー全員で打順を組む（チーム差あり）
- ・ 守備はフリー交代制とする（球審への申告の必要はなし）

申し合わせ事項

1 試合で全員に守備機会を与える

3 その他

- ・ 令和4年度春季リーグ戦は天童市内4中学校で行う。
- ・ その後は、状況を見ながら、天童を複数チームにし、賛同いただけるクラブチームを加えたリーグ戦へと移行していく。

予定

天童地域クラブ2年 天童地域クラブ1年 山辺町地域クラブ 中山町地域クラブ  
（寒河江市地域クラブ 東根市地域クラブ）

- ・ さらには1部、2部、3部（学年ごと）へと広げていきたい。

# 天童市中学生軟式野球クラブ後援会 会則

## (名 称)

第1条 本会は天童市中学生軟式野球クラブ後援会と称し、事務局を天童市野球連盟内に置く。

## (組 織)

第2条 本会は、天童市中学生軟式野球クラブに在籍する選手の保護者で組織する。

## (目 的)

第3条 本会は、天童市中学生軟式野球クラブの活動を後援することを目的とする。

## (総 会)

- 第4条
1. 通常総会は、会員をもって構成し、原則として毎年8月に開催する。  
また、会長が必要と認めたとき、あるいは会員の3分の1以上の請求があったときに臨時総会を開催する。
  2. 総会は、会務報告、会計報告、役員選出、会則の改正等を行う。

## (役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長	1	名
副 会 長	1	名
監 事	2	名

※本会役員は8月の代替わりをもって更新する。  
また、上記構成により組織するが、会務運営を円滑に遂行するため、適宜人員の増減を認める。

## (役員の仕事)

- 第6条
1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
  2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれに代わる。
  3. 監事は本会の会計を監査する。

## (役員の仕事)

第7条 役員の仕事は原則1年とし、再任は妨げない。

## (経 費)

第8条 本会の経費は会員の会費収入と寄付等をもってこれに充てる。

## (会計年度)

第9条 本会の会計年度は8月1日に始まり、翌年7月31日までとする。

付 則 この会則は令和 4年 1月 1日より施行する。  
この会則は令和 4年 5月29日より施行する。

# 令和3・4年度 会務計画及び報告

天童市中学生軟式野球クラブ後援会としての主な活動は、クラブ活動への経済的応援と練習やオープン戦、各種大会への参加等の協力です。

8月から毎週日曜日に地域クラブの練習を開始し、コロナ禍において、3月末まで、計16回の活動にご協力をいただきました。

これまでの主な活動及び今後の予定について、下記のとおり報告致します。

## 記

- |    |  |            |           |
|----|--|------------|-----------|
| 1  | クラブ練習開始  | 8月 1日(日)   | 天童一中G     |
| 2  | 生徒審判講習会  | 10月17日(日)  | 天童一中G     |
| 3  | 2021 U-14山形県選抜野球大会<br>※天童エンジェルスX、Yともに1回戦敗退   | 11月13日(土)～ | 県野球場      |
| 4  | 保護者へのクラブ説明会  | 11月17日(日)  | 天童一中体育館   |
| 5  | 後援会設立総会  | 12月19日(日)  | 天童一中体育館   |
| 6  | 生徒審判講習会(認定試験)<br>※アマチュア野球公認審判員「3級審判員」全員合格  | 3月27日(日)   | 天童一中G     |
| 7  | 春季エンジェル・リーグ  | 4月 3日(日)～  | 市内中学校G    |
| 8  | 全国中学生軟式野球大会東村山地区予選<br>※山形地区予選出場  | 5月 3日(火)～  | 天童二中G     |
| 9  | 後援会総会  | 5月29日(日)   | 天童一中体育館   |
| 10 | 全国中学生軟式野球大会山形地区予選<br>※1回戦敗退  | 6月25日(土)～  | 米沢市皆川球場   |
| 11 | U-15全日ラビットカップ<br>山形県大会兼全国・東北大会予選会<br>※天童エンジェルス1 準優勝 天童エンジェルス2 1回戦敗退<br>※第5回全国中学生野球大会 in 岩手出場 | 7月 2日(土)～  | 山辺球場 他    |
| 12 | 第5回全国中学生野球大会 in 岩手   | 8月 6日(土)～  | 花巻市大迫球場 他 |

# 天童市中学生軟式野球クラブ後援会 会費

## 1 一般会計

【生徒活動費】 月 1,000 円（令和4年度新入生は6月より徴収）

※前払い、一括払いも可とする。

## 2 特別会計

【大会参加費】 必要に応じて

※東北大会以上の上位大会出場の場合に、別途会計を設ける。

## 3 申し合わせ事項

- (1) 一般会計の徴収は、原則1学年4月から3学年の7月までとする。  
また、納入した会費（一般会計・特別会計）は、期日を問わず中途退会しても返金しない。
- (2) 特別会計については、大会に参加しない生徒からは徴収しない。
- (3) 市外女子野球チームに所属し、空いている時間のみ参加するクラブ員については、一般会計を徴収しない。
- (4) 令和4年度末にクラブ運営を総括し、後援会 会費の見直しをかける。

「働き方改革を推進する上で、部活動改革で大切にしたい視点とは」

天童市立第一中学校  
町田真裕

## 1 はじめに

教員の時間外勤務が月80時間を超えているなど、昨今、教職員の長時間労働が大きな課題となっている。その要因のひとつと考えられるのが休日の部活動指導である。

また、競技経験のない教員が顧問とならざるを得ないことやそのことで生徒の部活動への満足度を満たすことができないことも教員の負担感になっていると考えられる。

さらにその部活動においては、少子化による生徒数の減少や活動の多様化、外部活動の充実等により、各校において部員数の減少が大きな課題となっており、働き方改革とともに生徒の活動の保証も喫緊の課題となっている。

## 2 天童市の野球部合同部活動の取組

○ これから学校単位ではチームが組めない時期がくる

### (1) 部活動が成り立たない現実

令和元年度に各校の生徒数の減少からくる部員数の減少、小学校のスポ少の団員数からまもなく学校単位ではチームが組めない時期が来ることが予想された。

- ・ 月1回程度の合同練習会を企画してはどうか
- ・ 市で軟式野球クラブを作ってみてはどうか
- ・ 市野球連盟矢吹会長の部活動のクラブ化への推進

### (2) 合同部活動の推進に係る実践研究

令和3年度にスポーツ保健課から実践研究の話をいただき、県高野連、市野球連盟、市教委の後押しを受けて、実践研究を決定（活動は日曜日）

- 8月 合同部活動を隔週で実施（お試し期間）
- 10月 保護者説明会を実施し、参加希望者を募る
- 11月 本格的に活動開始（毎週日曜日） U-14大会出場（2チーム）
- 12月 後援会設立
- 4月 春季リーグ開催
- 5月 全軟地区大会出場
- 7月 全軟県大会出場 U-15大会出場（2チーム）→8月全国大会出場

### (3) 天童市の野球部合同部活動の捉え方

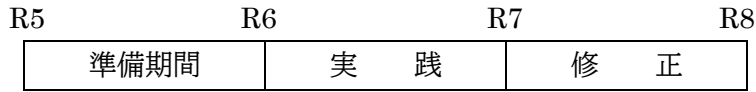
天童中学校に8名の顧問と3名の外部指導者と46名の部員がいて部活動をする。

- ・ 顧問は交代で参加できる
- ・ 顧問は専門的の指導が出来なくても外部指導者がいる
- ・ 大人数の野球部員で活動ができる

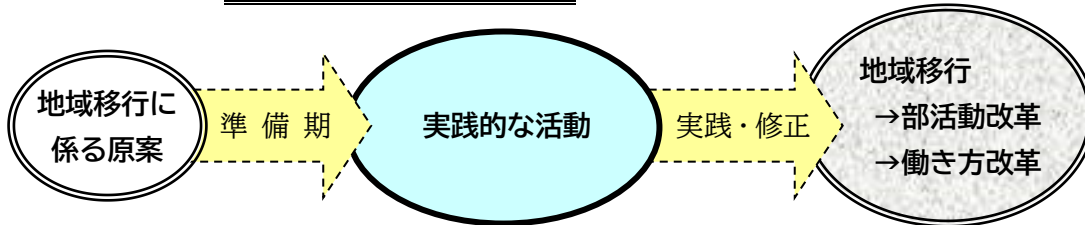
### 3 令和5年から3年間で地域移行の完成というスケジュールの捉え方

○ 3年間で何ができるのか

(1) 3年間というスケジュールは実質2年間の研究実践で完成させるということ



必要なのは 理論的なことよりも実践 による部活動改革である。



(2) 世の中の動向を知って（予測して）進めること

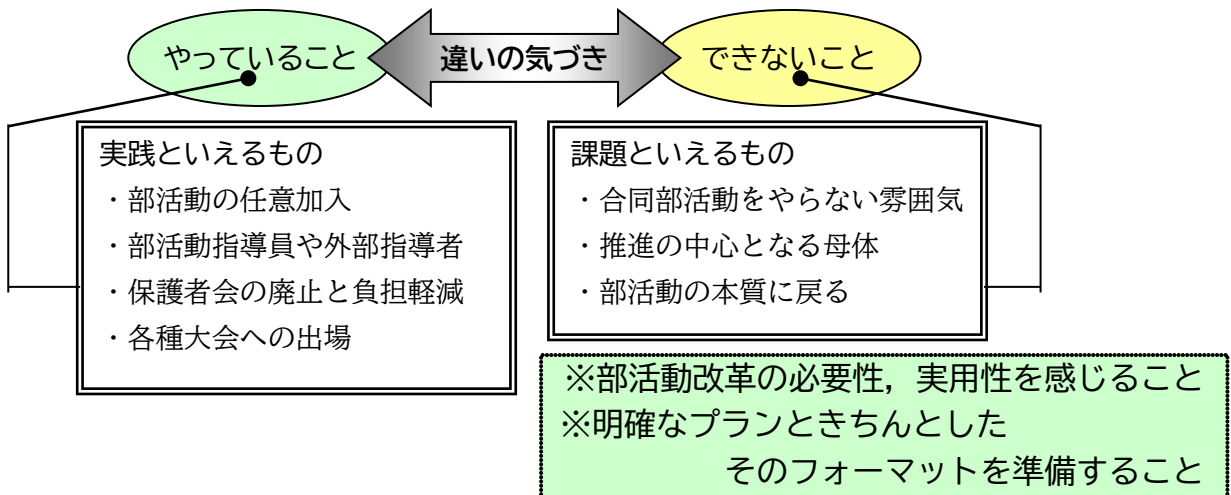
- ・ 種目（活動）が選べる時代  
部活動の任意加入 より高い競技力を求める生徒は外部へ  
能力、経済、環境等でできない生徒は部活動へ
- ・ 20年前から中学3年生の硬式野球リーグ戦（JLB Y）が存在  
地域の指導者発掘は進んでいた（上山，天童，山辺，中山，寒河江，東根等）
- ・ 自治体を含めた実質的な組織づくり・役割分担  
ある単位でまとまれば 活動場所はある・部員はある・指導者はある

### 4 令和3・4年度文部科学省合同部活動の推進に係る実践研究を振り返る

○ わかっているけど手をつけにくかったこと ～部活動改革をやる雰囲気～

(1) 中学校で部活動改革は可能か

- ・ 部活動改革（合同部活動）が行われにくい現状  
学校対抗で勝ち負けを競うという意識が顧問・指導者・保護者にはある。  
新たに何をしたらいいかを考え、準備しなければならないことの大変さ。  
保護者負担を含めた経済的なバックアップが必要。





## (2) 部活動の役割を考え直す

- ・教員の部活動のイメージを変えなければならない

本当に必要なことは生徒にその競技の楽しさを実感させること

- ・チーム指導方針の共有
- ・特別ルールによるリーグ戦の実施

母体となる団体（天童市野球連盟）が協力すること

- ・市野球連盟技術指導部による技術指導
- ・市野球連盟審判部による審判実技講習（アマチュア野球審判員3級取得）

保護者の負担を軽減すること

- ・保護者会の廃止
- ・生徒による試合運営（審判等）

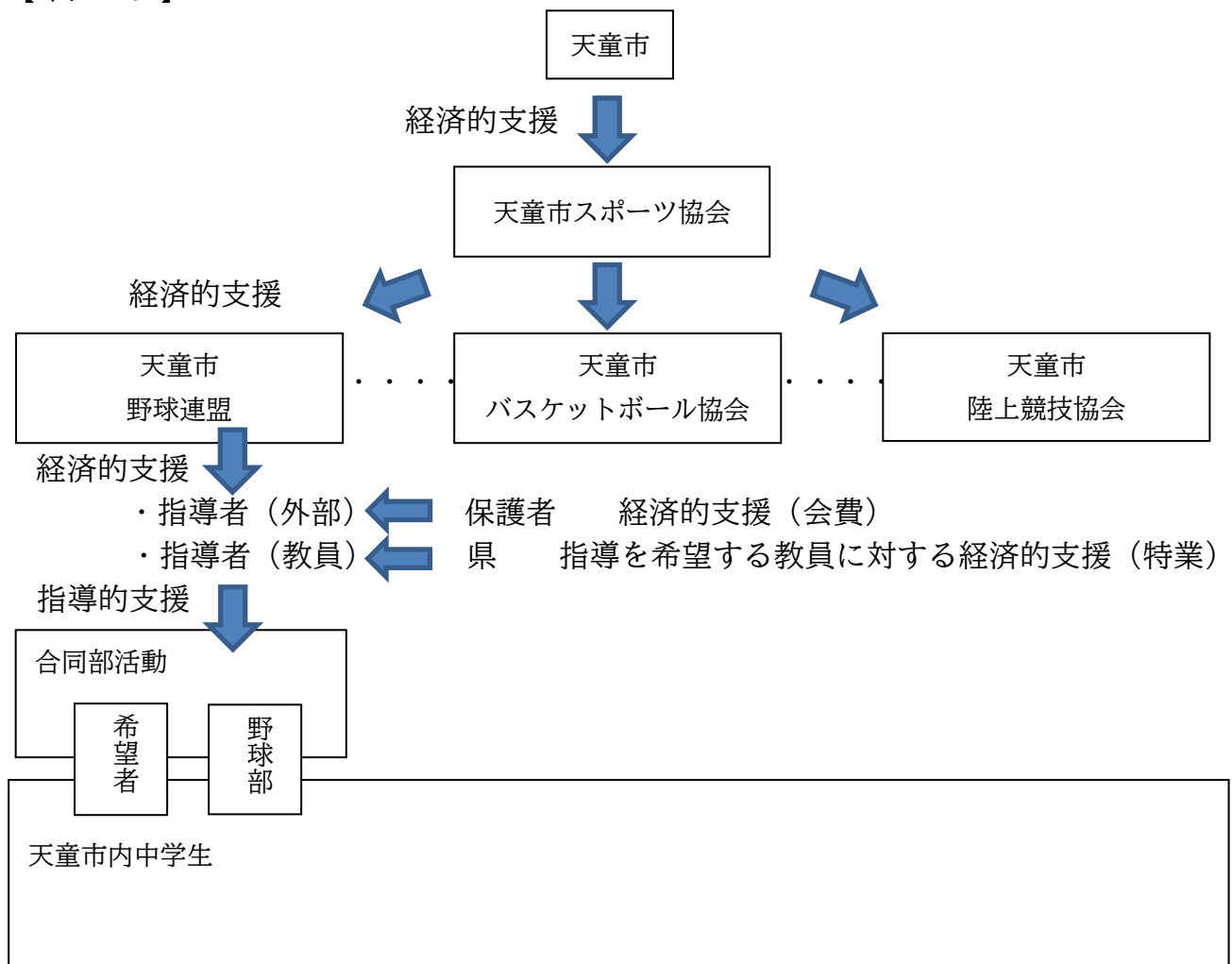
その他

- ・ICTを使った指導（振り返り）

## (3) 最後に課題となるのは経済面

持続可能にするためには母体となる団体（自治体 スポーツ協会 連盟）がセカンドキャリアとなりうる経済的支援をすること ボランティアでは続かない

### 【イメージ】



# 天童市の学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（案）

天童市立第一中学校  
校長 町田真裕

## 1 部活動における課題

### （1）教員の課題

- ・部活動指導による時間外勤務の増大
- ・専門外顧問による精神的負担

### （2）生徒の課題

- ・強制全員加入
- ・部活動指導の過熱による学業等への影響

### （3）その他

- ・活動選択肢の学校差，地域差
- ・少子化，活動の多様化，民間クラブの充実等による部員数の減少 等々

## 2 部活動改革の方向性（文科省）

- ・部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ，部活動改革の第一歩として，休日に教科指導を行わないことと同様に，休日に教師が部活動に携わる必要がない環境を構築
- ・部活動の指導を希望する教師は，引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ・生徒の活動機会を確保するため，休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

## 3 部活動改革の方針

「学校単位」の活動から「地域単位（支部を含む）」の活動への移行  
※持続可能な活動体制の構築

## 4 基本的確認事項

- ・競技のトップやプロ選手を目指すことや勝利至上主義での活動ではなく，あくまで生徒のスポーツ・文化活動を通じた心身の健全育成をめざすこと
- ・活動へは任意加入であること
- ・生徒がどの学校に通っていても，差異なく活動選択ができること
- ・保護者負担（金銭・送迎等）が少ないこと
- ・教員の指導者登録は任意登録制であること及び兼職兼業を認めること  
（ただし，当面の間は合同部活動と捉え，特業で対応する）

## 5 今後の対応

国，県の方針を踏まえ，天童市として，  
市における運動・文化部活動の地域等との連携の在り方に関する検討委員会の開催

### 参集範囲

市中学校長会 市教育委員会 市文化スポーツ課 市スポーツ協会  
P T A 連合会 有識者 など

## 6 天童市の部活動の在り方の見直し（案）

### （1）段階的な土日の地域移行に向けた進め方について

- ・学校教員の指導のもとに行われる部活動は、月曜～金曜までの平日のみとし、休日は活動を行わない方向で進める
- ・休日に活動を行う必要があるか、もし実施するのであれば、どのような体制で活動をしていくかについて、各部活動単位で、それぞれの部の実態に合わせて、今年度中に検討・決定し、遅くとも次年度地区中総体後からは実施をしていく

### （2）段階的な土日の地域移行に向けた具体的な方法について

#### パターン1

合同部活動：顧問が中心となり、2～4校の部が合同で活動 いずれ公的地域クラブ化

#### パターン2

公的な地域クラブ：協会や連盟等が外部指導者をたて、1～4校の部が合同で活動

#### パターン3

民間の外部クラブ：俗に言う外部活動 水泳や柔道、剣道 等

## 7 公的な地域クラブについて

### （1）運営について

- ・天童市に各競技（活動）の公的な地域クラブを設立する
- ・設立する公的な地域クラブの競技・活動は、現在、中学校にある部を基本とする
- ・各競技（活動）で設立する公的な地域クラブの数は、生徒の数に対する活動場所の広さや活動場所へ向かう移動時間、移動方法に困難が少ないように確保する
- ・クラブは生徒が自由に選択できる  
また、複数種目（活動）のクラブに所属することもできる

### （2）運営資金・費用負担について

- ・指導者の報酬、運営に係る費用、設備等に係る費用等は、自治体が負担することを原則とする
- ・使用する用具等に係る費用は、個人（保護者）負担となることもある

### （3）指導者について

- ・既存の競技団体等と連携し、専門的に継続して指導できる指導者を確保する
- ・指導者を希望する学校教職員は、兼職兼業届を市教育委員会に提出し許可を得る

### （4）活動について

- ・活動時間は、現在の中学校部活動のガイドラインに則り、平日2時間程度、休日3時間程度を基本とする  
また、平日・休日の活動については、ガイドラインに沿った「活動を行わない日」を設ける
- ・平日の夜間の活動時刻については、生徒の移動所要時間や生徒の負担、学業への影響等を考慮して設定する

## 8 民間クラブについて

生徒の民間の外部クラブへの所属については、特に制限しない  
ただし、生徒の負担や学業への影響等について考慮してもらうよう、民間の外部クラブに対して適時要請する

## 9 その他

- ・ 今後は、地域移行された公的な地域クラブをメインの活動と捉え、平日の学校部活動については、公的な地域クラブの補填的活動と位置付ける
- ・ 中体連以外を含む大会への参加や練習試合の計画等は、部活動顧問と相談のうえ、公的な地域クラブが担当する
- ・ 市や学校、公的な地域クラブの代表者等で構成する協議会を設置し、定期的に会議を設ける
- ・ 現行の部活動指導員予算については、完全移行した際には学校から公的な地域クラブへの配当に切り替える
- ・ 県においても現行の特業予算について同様とするよう要望する

# 天童市野球部合同部活動の実践について



天童市中学生軟式野球クラブ  
代表 町田真裕

- 1 はじめに
- 2 令和元年度に感じた課題
- 3 天童市の野球部合同部活動の取組
- 4 令和5年からの地域移行

1 はじめに

2 令和元年度に感じた課題

3 天童市の野球部合同部活動の取組

4 令和5年からの地域移行



# 天童市



昭和30年度	天童中	県大会	準優勝		
昭和35年度	天童中	県大会	準優勝		
昭和36年度	天童中	県大会	準優勝		
昭和43年度	天童一中	県大会	優勝		
昭和50年度	天童一中	県大会	優勝	東北大会出場	
昭和53年度	天童一中	県大会	優勝	東北大会 第3位	
平成 6年度	天童三中	県大会	準優勝	東北大会出場	
平成 7年度	天童三中	県大会	準優勝		
平成 9年度	天童三中	県大会	準優勝	東北大会 優勝	全国大会出場
平成13年度	天童三中	県大会	優勝	東北大会 準優勝	全国大会出場
平成14年度	天童三中	県大会	優勝	東北大会 優勝	全国大会 ベスト8

中野拓夢 (現阪神タイガース)

加藤武治 (横浜ベイスターズ等  
現日本ハムファイターズコーチ)

栗原健太 (広島東洋カープ等  
現ロッテマリーンズコーチ)

武田陸玖 (現山形県立山形中央高等学校)

1 はじめに

2 令和元年度に感じた課題

3 天童市の野球部合同部活動の取組

4 令和5年からの地域移行

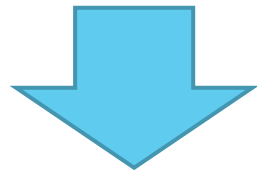
# 令和元年度 部活動が成り立たない現実

中学校の部員数の減少

小学校のスポ少の団員数の減少



まもなく**学校単位ではチームが組めない**時期が来る



- ・ 月1回程度の合同練習会を企画してはどうか
- ・ 市で軟式野球クラブを作ってみてはどうか
- ・ 天童市野球連盟 矢吹会長の部活動のクラブ化への推進

## 令和3年度

	1年	2年	計
一中	4名	5名	9名
二中	9名	3名	12名
三中	5名	6名	11名
四中	4名	10名	14名
計	22名	24名	46名

## 令和4年度

	1年	2年	計
一中	4名	3名	7名
二中	0名	9名	9名
三中	7名	5名	12名
四中	5名	4名	9名
計	16名	21名	37名

野球人口減少が顕著な天童市の実情



令和3年度より

山形県教育委員会からの委託事業(文科省)

- ・合同部活動推進モデル地域指定  
(県内他2地域)
- ・活性化推進会議への参加・報告



実践研究



# 文科省による働き方改革（部活動改革）

## 教員の課題

- ・部活動指導による時間外勤務の増大
- ・専門外顧問による精神的負担

## 生徒の課題

- ・部活動指導の過熱による学業等への影響
- ・強制全員加入

## その他

- ・活動選択肢の学校差、地域差
- ・少子化、活動の多様化、民間クラブの充実等による部員数の減少  
等々

## 部活動改革の方向性（文科省）

- 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、**休日に教師が部活動に携わる必要がない環境**を構築
- 部活動の指導を希望する教師は、**引き続き休日に指導を行うことができる仕組み**を構築
- 生徒の活動機会を確保するため、**休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備**

- 1 はじめに
- 2 令和元年度に感じた課題
- 3 天童市の野球部合同部活動の取組
- 4 令和5年からの地域移行

- 活動は毎週日曜日 3時間
- 会場は4つの中学校を回る
- 公式大会出場  
U-14 U-15等
- 兼職兼業申請



写真：産経新聞社提供



### 山形・天童 4校の野球部が練習



牽制球で塁に戻る走者「セー  
ン」をシャッフルする審判役の部員  
＝令和3年11月、山形県天童市

部員9人では…  
昨年11月、天童市立第二  
中のグラウンドには、市立  
の全4中学校の野球部員45  
人が集まった。指導者は町  
田代表を含めて10人。ユニ  
ホームはバラバラだが、活  
気のある声が一言に響く。  
夏の県大会後、3年生が  
引退し、各校の部員は9～  
14人になった。部内での練  
習試合はあちか、連携レ  
ーの練習もあつたかない状  
況になった。  
「一番少ない天童一中の  
部員は9人。硬式野球にい  
く生徒もいるが、これでは  
中学で野球ができなくな  
る」  
危機感から町田代表が中  
心となり天童市野球連盟な  
どと調整し、4校の野球部

を合わせた同クラブを始動  
させた。毎週日曜に4校の  
部員が1校に集まり、合同  
で練習する。校庭を覆が覆  
うようになってからは、体  
育館や武道場で練習を続け  
ている。  
人数が40人規模になった  
ことで練習の幅が広がった。  
チーム編成が容易にな  
り対抗戦ができるようになった。試合を運営するた  
め、部員はルールを勉強し  
直し、審判の目録を学ん  
だ。天童市立一中1年の小  
座間綾土さん13は「審判  
講習は難しかったけど、勉  
強になった。これからは野  
球をたい」といつ。  
教師側の負担減も  
同クラブには、高校野球  
で活躍した人ばかりでなく  
大学野球経験者や陸上競技  
経験者もいる。陸上競技経  
験者の天童市立一中の教  
諭、鈴木友輔コーチ(36)は  
「野球は総合スポーツ。私  
らは走塁面で指導できますか  
ら」といつ。  
「野球の方程式」と書い

たホワイトボードを持って  
指導する大学野球経験者の  
今田昌揮コーチ(40)は、野  
球と他の球技との違いを部  
員に丁寧に説明する。今田  
コーチは「試合に勝つため  
に教えますが勝利至上  
主義ではない。むしろ『勝  
利志向主義』です」とほほ  
笑む。  
練習後、大勢の部員の前  
で「あの時のプレーだけ  
どどどいすればよかったの  
かな」と今田コーチが質問  
する。手を挙げた部員の答  
えに「そうだった、その通  
り。それでいいんだ」と部  
員自らが考えを付いたこと  
をたたえる。

教師の「働き方改革」を  
進めるため、文部科学省は  
令和2年、「5年度以降、  
休日の部活動の段階的な地  
域移行を図る」との方針を  
示した。スポーツ庁は昨年  
10月、休日の部活動の外部  
委託に向けた検討を始めて  
いる。  
町田代表には最近、陸上

中学校の部活動が変り始めている。これまで教師が休日で指導してき  
た学校単位の部活動から地域単位の「地域クラブ」に変わつつあるからだ。  
山形県天童市では昨年11月、市立中学4校の野球部が合同で、天童市中学生軟  
式野球クラブ「天童軟式野球クラブ」をスタートさせた。指導する天童市教  
育委員会の学教教育課長の町田昌揮代表(56)は「少子化、教師の働き方改革か  
ら生まれた新しい部活動の形。野球を通して人間育成を目指す場にしていきたく  
い」と話す。  
(柏崎幸三、写真も)

## 中学部活 地域クラブ化進む

やバレーボールなど他部や  
他校からも問い合わせが相  
次いでいる。地域クラブの  
取り組みが必要なのは、野  
球だけではないからだ。  
同クラブでは雪解けを待  
って3月末にも、クラブ内  
でリーグ戦を始める予定  
だ。できるだけ全員が試合  
に出られるように工夫す  
る。将来的には全国中学校  
軟式野球大会の出場も目指  
す。  
「天童市の野球をのりた  
い中学生に野球を続けさせ  
たい」といつ思いで作った  
クラブ。互いに競い合い、練  
習試合を重ねていけば技術  
ももっと向上していく。野  
球を通して学んだことを生  
かして人間になってほしい  
んです」と町田代表は言  
う。

### 天童 合同練習や混成チームで試合



## 4中学校 野球部協力

天童市内の四つの中学校(天童一、天童二、天童三、天童四)の野球部が協力  
し、合同練習や混成チームによる試合に取り組んでいる。少子化や教育現場など  
の現状を鑑みて今秋から本格的に始動。地元の競技団体や市教育委員会、保護者  
とも連携し、子どもたちが野球を楽しむ、競技力を向上できる環境をつくりなが  
ら、将来的には地域クラブとしての確立を見込んでいる。

### 連盟や市教委、保護者連携

混成チームで練習試合に臨んだ天童  
市内の中学野球部員  
＝天童四中

市内全4校の野球部員は  
計約45人で、部員の減少や  
活動の縮小が続く。さらに  
目標の違いや発進程度の差  
異、保護者や教育現場の負  
担度合いなど、課題もさま  
ざまだ。そこで4校と市教  
育委員会、市野球連盟(天  
吹栄修会長)がこれらの現  
状を共有。生徒のための受  
け皿として、「学校と地域  
が協働・融合」をイメージ  
したクラブチームの設立案  
に至った。  
「総合的な人間形成」「野  
球と学業の両立」「休日の  
地域部活動の実現」を方針

に徐々に活動。10月から  
本格化し、4校の部員や  
コーチ、連盟のメンバー  
らが毎週日曜日の練習に  
励む。  
今月7日には4校混成に  
よる3チームが編成され、  
練習試合を行った。ゲーム  
は時間制で、全員が出場で  
きるよう自由を交えた。選  
手たちの自主性を重ん  
じ、ベンチには連盟の技術  
指導者が待機して相談を  
受けた。野球を始めたばかり  
の打者が空振りしても、「  
スイングはいいよ、なぜ  
と声を掛け合ったり、守り  
のピンチでは自然と投手  
のところに集まったりし  
ながら、選手たちは白球  
を追う楽しさを体現して  
いた。  
同連盟技術指導部の町田  
真裕学校顧問は「昔からあ  
る野球本来の楽しさを味  
わいながら、クラブチーム  
の大会で全国出場を目指  
すなど、地域として壮大な  
夢を描いている」と語って  
いた。  
(津波和美)

# 設立にあたって

- ・ クラブの理念を明確にする
- ・ 指導ビジョンを共有する

クラブの理念を明確にする

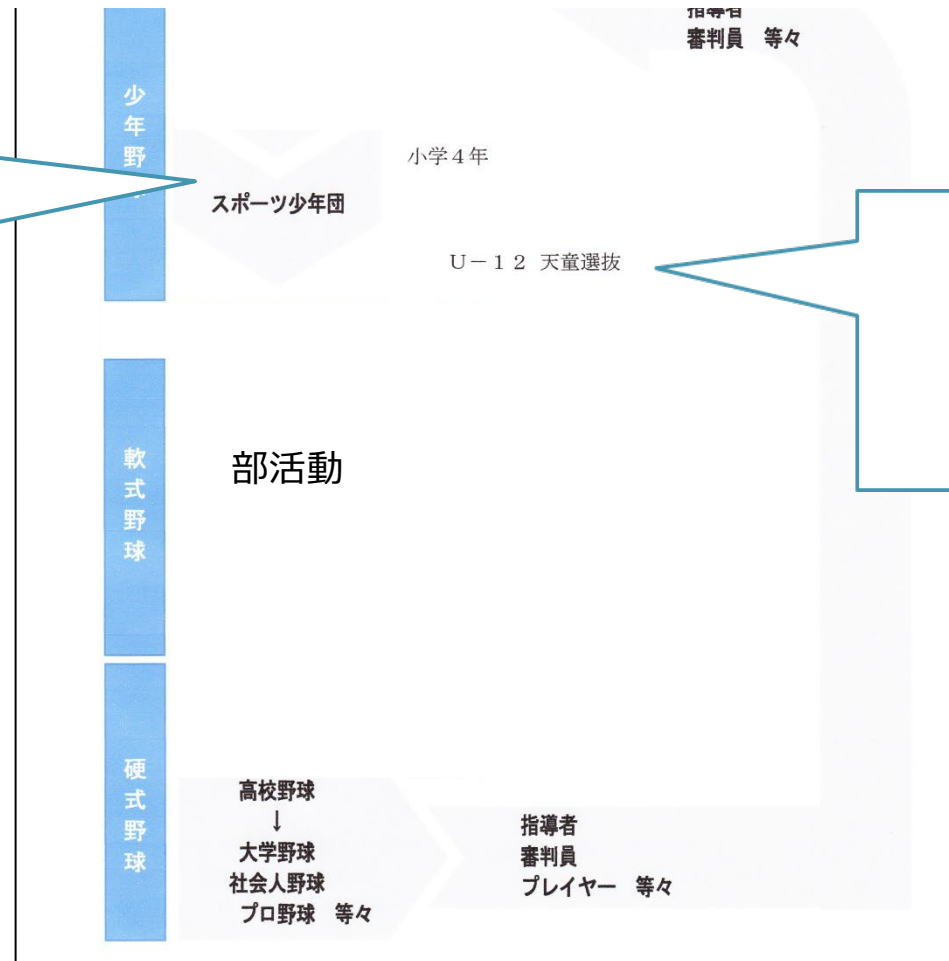
天童市中学生軟式野球クラブの理念

目指すのは持続可能な野球循環



# オール天童で野球環境づくりが始まった

ちびっこ  
エンジェルス



選抜から  
希望制に

指導ビジョンを共有する

天童市中学生軟式野球クラブの指導ビジョン

— 探究・挑戦・協働 そして、自立へ —

I love Baseball but Baseball is just a chapter in life

『 野球は大好き でも 人生の一部でしかない 』

「指示されたとおりに動く」のではなく、  
「自分で考え、自分で決めて、自分から動く」

## 3つの指導方針

野球の本質を問い、探究し続ける

未知の体験に飛び込み、挑戦し続ける

仲間と目標を共有し、協働し続ける

- ・ 指導者は

野球部顧問 6 名

(内 3 名野球未経験)

(内 1 名野球指導未経験)

外部指導者 3 名

(天童市野球連盟技術指導部)



写真：産経新聞社提供



写真：産経新聞社提供





# 春季・秋季リーグ戦

## 参加チーム

天童地域クラブ2年 天童地域クラブ1年  
山辺町地域クラブ 中山町地域クラブ

- ・ 打者は登録メンバー全員で打順を組む ※チーム差あり
- ・ 守備はフリー交代制とする ※バスケットボール方式  
1試合で全員に守備機会を与える ※申し合わせ事項
- ・ 7回戦（75分で試合は打ち切る）※ラグビー方式
- ・ カウントは0-1から始める
- ・ 投手は1日5イニングまでとする



# 審判講習会

天童市野球連盟審判部の指導

- ・年2回の審判講習会

山形県高等学校野球連盟の協力

- ・アマチュア野球公認審判員「3級審判員」を全員が取得

- ・春季・秋季リーグ戦で審判
- ・小学生大会で審判予定

写真：産経新聞社提供



# 動作解析

## TOPPANの協力（モデル事業）

### 動作解析ソフトの活用

- ・ 経験がない指導者でも指導が可能
- ・ 生徒同士での技術向上
- ・ 時間外での指導

## タブレットによる振り返りへのコメント

**野球指導 デジタル活用**

天童市内の中学生の野球クラブチームで今月からデジタル技術を活用して打撃フォームの課題点を可視化できるシステムを使った取り組みが始まった。タブレット端末で、生徒とモデルの動きを見比べることで、効率的な指導につなぐ、教員の負担軽減を図るのが狙いだ。競技経験のない指導者もいる中、部活動の質向上につながるか、関係者は注目している。（菅隆亮 佑）

**手本と比較し動作改善**

このクラブが導入するのは、手本となる動きは、同じく、日本体育大（同）が共同開発した打撃フォームを撮影して動作を進める「ループレ」独自の動作分析システム。端末の画面で、打撃する選手の動きを撮影し、フォームの手本と自分の動きを比較して見比べる。天童市原町の市立第一中学校で、修正点を把握できるように、9日に開かれた、

市立第一、第四中の4校の野球部員が所属する同クラブの練習。指導者や部員約30人が集まり、ティー打撃の模様を動画撮影し、専用のタブレット端末に映し出された、部員とモデルのフォームを見比べながら、指導者たちが改善点を指摘していた。

市立第一中2年、水戸龍聖君13は、自分の場合は、上半身が前に突っ込んでしまっただけだとわかった。端末の操作も簡単だったのでもっと練習に取り入れていきたい」と効果を実感していた。

このシステムでは、画面を分割し、別々に撮影した自身の映像を並べて見比べられるため、指導の前後でフォームが改善されたか、指導者も生徒も簡単に点検できる。

同社で開発を担当する田中選手（43）は、ひくひくは選手たちだけで練習に取り入れていけるよう、できるだけシンプルな操作方法を目指したと説明。撮影した映像を基に、修正点を画面上に示せるような機能も開発中だという。

同社は2019年から、こうしたシステム開発に取り組んでおり、既にバスケットボールと陸上競技で、県外の三つの公立中で実証事業を実施している。

野球でのシステム開発を進める中、天童市野球連盟に実証事業を提案。連盟側は「誰でも機器一つで基本動作を習得でき、特に野球を始めたばかりの初心者に適している」と評価し、同連盟と同市教育委員会がつくる同クラブで取り入れることになった。

今後、打球や守備でも開発が進めば、同クラブが練習で使う、システムの改善点を同社に伝えたい。

同クラブで代表を務める、市立第一中の町田真裕校長は「競技経験のない指導者もいるし、経験があっても自分の指導法が正しいのか不安な部分がある指導者もおり、一定水準の指導をする上で有効なツールだ」とした上で、「どんなレベルの生徒でも、システムを使って課題を把握し、技術を向上させられる。将来的には地域全体で取り組めれば」と話している。

（編集 菅隆亮 佑）

市立第一、第四中の4校の野球部員が所属する同クラブの練習。指導者や部員約30人が集まり、ティー打撃の模様を動画撮影し、専用のタブレット端末に映し出された、部員とモデルのフォームを見比べながら、指導者たちが改善点を指摘していた。

市立第一中2年、水戸龍聖君13は、自分の場合は、上半身が前に突っ込んでしまっただけだとわかった。端末の操作も簡単だったのでもっと練習に取り入れていきたい」と効果を実感していた。

このシステムでは、画面を分割し、別々に撮影した自身の映像を並べて見比べられるため、指導の前後でフォームが改善されたか、指導者も生徒も簡単に点検できる。

同社で開発を担当する田中選手（43）は、ひくひくは選手たちだけで練習に取り入れていけるよう、できるだけシンプルな操作方法を目指したと説明。撮影した映像を基に、修正点を画面上に示せるような機能も開発中だという。

同社は2019年から、こうしたシステム開発に取り組んでおり、既にバスケットボールと陸上競技で、県外の三つの公立中で実証事業を実施している。

野球でのシステム開発を進める中、天童市野球連盟に実証事業を提案。連盟側は「誰でも機器一つで基本動作を習得でき、特に野球を始めたばかりの初心者に適している」と評価し、同連盟と同市教育委員会がつくる同クラブで取り入れることになった。

今後、打球や守備でも開発が進めば、同クラブが練習で使う、システムの改善点を同社に伝えたい。

同クラブで代表を務める、市立第一中の町田真裕校長は「競技経験のない指導者もいるし、経験があっても自分の指導法が正しいのか不安な部分がある指導者もおり、一定水準の指導をする上で有効なツールだ」とした上で、「どんなレベルの生徒でも、システムを使って課題を把握し、技術を向上させられる。将来的には地域全体で取り組めれば」と話している。

（編集 菅隆亮 佑）

記事：読売新聞社







- 1 はじめに
- 2 令和元年度に感じた課題
- 3 天童市の野球部合同部活動の取組
- 4 令和5年からの地域移行

## 部活動改革が行われにくい現状

- ・ 学校対抗で勝ち負けを競うという意識が顧問・指導者・保護者にある
- ・ 新たに何をしたらいいかを考え、準備しなければならないことの大変さ

そのためには

どこかの組織が母体となり（市野球連盟）

どこかの組織が推進し（市教委・市校長会）

誰かが中心となって（顧問・外部指導者）

実践していくことが必要

最後はその覚悟を持てるか

最後に

国は  
ボランティアでは続かないというが・ ・ ・

本当にそうだろうか





**TENDO** 天童 **ANGELS**  
SINCE 2021

TENDO JUNIOR HIGH SCHOOL BASEBALL TEAM

天童市はこれからも挑戦し続けます

ありがとうございました